

## 2024年度 第2回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2024年7月27日(土) 10時～12時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 米本(雲雀ヶ丘学園小学部)、加藤(川上村水源地課)、新宮(奈良女子高等学校)、  
森と水の源流館:尾上・古山・上西・高田・木村  
奈良教育大学:加藤・中澤、学生・田中 11名

### ◇内容

#### 1. 雲雀ヶ丘学園小学部の実践の紹介

「里地里山 命の環プロジェクト」のきっかけ

- ・力強く生きぬく人間力は自然の中で豊かな体験でこそ育つ

2018年11月 池跡地の施工のスタート

2019年11月 親子協働活動のスタート 防水シートをひいてひばりの里づくり

- ・これまでに4回実施 600人以上が参加
- ・家族で熱心に取り組んでいたのが印象的であった
- ・学園長や副校長も一緒に活動していた

#### 【大変だったこと】

- ・土と腐葉土を32トン、バケツリレーで運んだ
- ・親子活動ができるまでの準備が大変だった
- ・教員の理解や協力を得ることが困難であった

#### 2. 学校ビオトープ(ひばりの里)で行っている環境教育

1・2年:米作りのお手伝い(代掻き・落ち葉集め)

3年生:無農薬・勇氣肥料による米作り(全20時間)里のお手入れ(草抜き・田おこし)

学習目標「みんなの力を合わせておいしいお米を作り、地域の自然や、生きものも守ろう」

米づくり活動の苦勞

カメムシやイネミズゾウムシ、スズメなど、自然が強すぎて米が満足に育ったことがない

2020年度(0キログラム)、2021年度(1.7キログラム)、2022年度(5.8キログラム)、

2023年度(8.85キログラム)、2024年度(目標10キログラム)

4年生:さと池の生き物と環境調べ

兵庫県では絶滅危惧種の種類数が増えているが、「さと池」では増えている。

ミナミメダカ、コオイムシ、スジヒラタガムシ、トチカガミ

12月:生きもの救出活動

12月:親子で「ひばりの里」お手入れ活動:約80家庭が参加

池の中にたまった「ヘドロ」は田んぼにまく

5・6年:準備中

保護者:田植え、稲刈り補助、里のお手入れ協働活動(池のかいぼり等)、親子でモニタリング(生き物調べ)体験

#### 3. アンケート調査:子どもたちの変容

- ・米づくりがとても楽しかった・楽しかったが 98%
- ・たんぼは人と生きものの両方にとって大切 85%
- ・お米をつくらなければ自然はまもれない 57%
- ・米を食べる回数を増やしたい 71%
- ・食べ残ししないようにしたい・残さない 94%
- ・ひばりの里の活動で自分の「よいところ」を見つけた 84%

#### 4. 今後の展開

外へと子どもたちの視野を広げたい 最明寺川 猪名川流域

#### 参加者の意見

- ・苦労そのものが教材
- ・農家との連携は重要
- ・親子にとって自然体験のおもしろさを体感させているところがすばらしい

